

地元 J2 サッカーチームとの交流の場を提供し集客を図った

甲府商工会議所

機関名	甲府商工会議所		
所在地	山梨県甲府市相生 2-2-17		
電話番号	055-233-2241		
地域概要	(1)管内人口 195千人	(2)管内商店街数	85 商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 13 商店街	(2)会員数	314 商店
	(3)空店舗率 6.6%	(4)大型店空き店舗数	0 店
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成 15 年度 空き店舗対策事業
総事業費

・スポーツ、文化の情報発信拠点
・交流の場の提供
22,487 千円

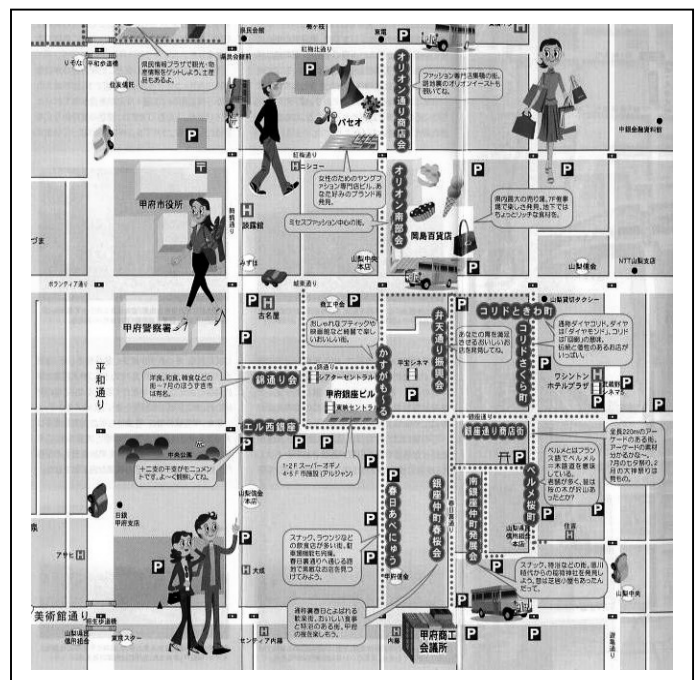
【事業実施内容】

1. 背景

13 商店街からなる中心商店街の中でも、核となる百貨店を起点とする「かすがも〜る」(かすが商店街振興組合)はもともと集客のある商店街である。しかしながら、平成 11 年のトポス甲府店の撤退により、大型の空き店舗施設が生まれたことと、生鮮食品を扱う店舗がなくなったことの来街者数への影響は非常に大きかった。中心商店街は甲府駅から離れるほど、空き店舗数が増加しており、厳しい状況にあるなか、中心的存在の「かすがも〜る」の衰退を食い止めることは急務であった。

そこで、甲府市、甲府商工会議所、中心商店街で協議会を設け、次の 3 つを大きな課題として対策を実施することとなった。

- (1) 売場面積 1 万㎡の大型空き店舗を何とかする。
- (2) 甲府にしかないもの、地域を特徴づけるものが欲しい。
- (3) ヴァンフォーレ甲府 (サッカー J2) が存続の危機にあるが、地元との交流の場がない。



甲府市中心商店街マップ

甲府商工会議所

大型空き店舗に関しては、郊外型の地元スーパー「オギノ」を誘致することができた。甲府商工会議所では、衰退している甲府市中心商店街の活性化を図るため、平成14年度より中小商業活性化事業に取り組んでおり、15年度も同事業を引き続き実施した。

基本方針としては、テナントミックス的な考え方や地域の新たなイベントの創出に重点を置き、かつ、他地域との差別化を図る意味でそこにしかない独自性を持った店舗展開や非日常的な雰囲気醸し出すイベントということで展開を図ってきた。

空き店舗活用やイベント事業を実施する上での具体的な切り口として、地域活力の源であるサッカーJ2のヴァンフォーレ甲府との連携、文化性を活用したカルチャー、学生や大学との連携、地域コミュニティ放送との連携、新たな甲府市中心商店街の集客イベントの創造などがあげられた。

2. 事業内容

事業期間 平成15年7月1日～平成16年3月31日

対象商店街 甲府市中心商店街（かすが商店街振興組合他）

(1) まちなかヴァンフォーレプラザ

中心市街地の商店街である「かすがも～る」（かすが商店街振興組合）の空き店舗を活用して、サッカーJ2のヴァンフォーレ甲府を応援する交流施設を設置した。

所在地：甲府市中央1-6-2 不動ビル 1F

①ヴァンフォーレ甲府コーナー（継続）

ヴァンフォーレ甲府選手の経歴等が記載された顔写真を提示した選手紹介コーナーを設置。

②大型・小型テレビによる試合のビデオ放映（継続）

③サポーターの加入手続き、チケット・グッズ販売（継続）

④メッセージボードの活用（継続）

⑤インターネットを活用した情報発信（一部継続）

ヴァンフォーレ甲府のリアルタイム情報や中央商店街の情報をいつでも気軽に情報収集できるよう、パソコン1台を設置。

⑥国際観光・物産の提供（新規）

山梨県甲府市の姉妹有効都市である中国四川省の観光物産情報紹介コーナーを設置、パネル等の展示。

⑦スポーツ写真コンクールの開催・展示（新規）

サッカーなどスポーツ全般の写真コンクールを実施。

(2) まちなかイベントホール

まちなかヴァンフォーレプラザの隣



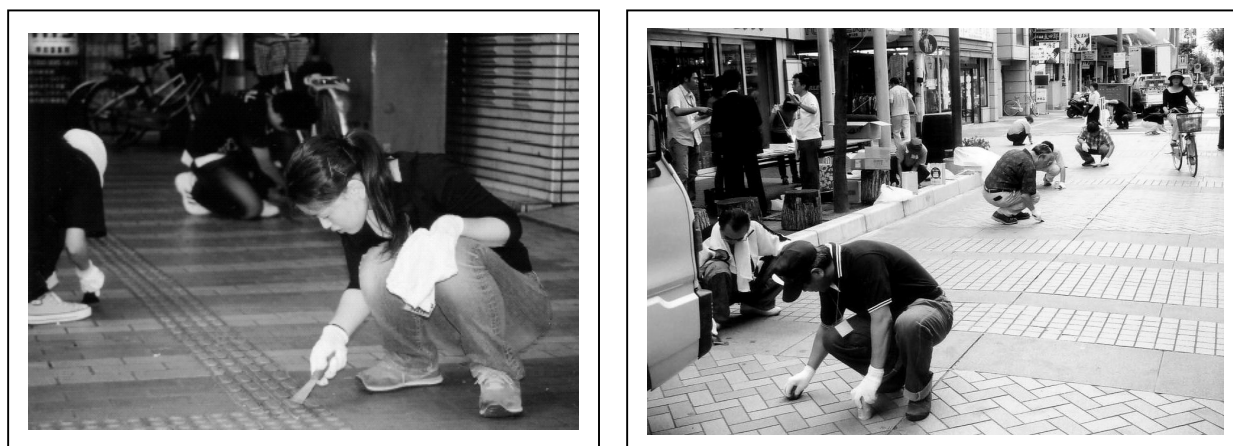
ヴァンフォーレプラザ

にFMサテライトスタジオ、休憩所等の機能をもつ施設を設置した。

①地域FMコミュニティサテライトスタジオ（継続）

②学生との協働事業の検討・実施（新規）

イベントホールに集まる学生とのまちづくりに係る協働事業を提案するなかで、山梨大学環境サークルとの協働で「商店街クリーン作戦」を企画実施した。



商店街クリーン作戦の様子

③一休みコーナー（新規）

高齢者を中心とした来街者の休憩場所として機能や囲碁、将棋を楽しめる場を提供

(3) まちなかのづくり工房

中心市街地の商店街である「かすがも〜る」（かすが商店街振興組合）の空き店舗を活用して、カルチャー教室、体験工房等の実施により賑わい創出を図った。

所在地：甲府市中央1-6-4 かげつビル 1F 2F

①コミュニティビジネス（カルチャー教室）（継続）

②体験工房（継続）

③一坪自然食品コーナー（新規）

まちづくり市民団体が自然食品を商店街名物に育てようと生の果物を使用した無添加ジェラードを開発し、実験販売を行った。

④まちなか美術館の開催（新規）

陶芸家、藍染作家、押し花、クラフト作家等による展示、販売

⑤外国家庭料理の紹介（新規）

- ・バングラディッシュ教育支援の会との協働によりカレーの試食と民族衣装サリーの無料体験試着会を行うとともに、パネル展示、チャリティー販売を実施
- ・山梨学院大学に在籍している中国人留学生による中国餃子の実演販売を実施

(4) まちなかフェスタ

①ナイトジュエリー甲府（一部継続）

平成15年12月1日から平成16年2月14日の間、甲府駅前の街路樹10本に105,000球の電飾を施した。

②ナイトジュエリーフォトコンテスト

ナイトジュエリー甲府のイルミネーション写真を募集し、審査、展示会を実施

③まちなかの音楽祭&都市農村交流市場（一部継続）

音楽愛好家や一般県民・市民を集客するためのイベントとして音楽祭を実施。同時に、県内各地の野菜、果物、加工品などを集めた市場を開催。

④大道芸フェスタ in 甲府（新規）

【 効 果 】

1. 新たな客層の開拓

いつでもヴァンフォーレの情報やグッズの購入ができる施設が他にはないため、日頃商店街には来街されない層の人々が訪れるようになった。特に、もっとも商店街を利用しない20代から30代の来街者が増えた。

2. 個店の努力

中央商店街のなかの45店舗が協賛して、VF甲府が勝利した翌日には、個店独自の特典サービスを実施し集客を図るなど、ホームタウンとしてのメリットを販売促進につなげようとする動きが現れた。

3. VF甲府との相乗効果

VF山梨スポーツクラブ独自のホームページ上でヴァンフォーレプラザの告知をしたことによるPR効果による知名度向上で集客が図られた。また逆に、VF甲府の知名度が上がり、試合観戦の動員も図られるなど、相乗効果があった。

4. 空き店舗の減少

事業終了後、新たに4店舗の空き店舗の出店が決まった。商店街の魅力が向上したこととの現れであると思われる。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. PR

告知については、ラジオスポットや新聞広告、記事、タウン誌などを活用し周知したが、定期的に継続して告知する手段を考える必要がある。告知手段と費用効果を検討しながらPRに努める。

2. 個店の活性化

一般県民・市民の来店についてはほぼ予定通りであったが、今後は多くのサポーターの来店や利用客同士のコミュニケーションにより、店舗自体の活力を養い、商店街の活力に反映されることが望まれる。

3. VF甲府の選手との交流

選手の管理については監督、役員の指揮下にあるため難しさはあるものの、当該施設と選手との関わりを今後より深め、店舗の集客を向上させるとともに、商店街への来街

を促すことが必要と考えられる。

4. 予算の確保

多少の物販も行うが利益を生む事業ではないため、行政の補助を取り付けることが必要である。

【事業の実施ポイント】

補助事業を実施する場合、補助対象経費に制限があるため、実施主体は相当な経費を想定しなければならない。また、自主財源の確保を目指すものの、事業の性質上、採算性を確保することが困難である場合は、市町村の補助を取り付けることも必要となってくる。

事業の継続という観点からすると難しさはあると思うが、地域が求めているもの、地域活力を活用したもの、そこにしかない店舗など、いわゆるコミュニティビジネス的な要素を取り入れる必要があると感じる。

行政機関や関係団体との連携を密にして、より良い事業体制を組むことが大切である。

【関連URL】

甲府商工会議所 <http://www.kofucci.or.jp/>